



学校法人 いのせ学園
 サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園
 〒329-0617 栃木県河内郡上三川町上蒲生2111-1
 Tel・0285-56-7222 Fax・0285-56-0360
<https://www.sunnyside.yashio.ed.jp>



Sunnyside International Sunnyside International

学校法人 いのせ学園
 サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園

Introduction ごあいさつ

やしお幼稚園の設立は1977年です。

設立当初から大切にしていることは、自然との触れ合いです。

当園には森があり小川があります。動物がいます。子どもが成長し大人が成長する。豊かな自然がその舞台です。そこに込められているのは、やがて社会に出ていく子どもたちに「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」ための土台をしっかり身につけてほしいという想いです。

もうひとつ大切にしていることに「しつけ」があります。

あいさつ、返事、靴をそろえる、姿勢を正すなど基本的な生活習慣が一人一人の子どもに身につくよう導いています。

その上で21世紀に生きる子どもたちは世界のなかで力を発揮しなければなりません。日本語でも英語でも自分を表現できる能力を身につけ、コミュニケーションを図ることはあたりまえのことになります。

子どもは驚異的な能力ですばやく言葉を習得し、完ぺきなアクセントや表現を身につけてしまいます。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園では、英語を自由自在に使えることが不可欠となった現実を踏まえて、子どもたちへの英語教育を行っています。

日本人の心を大切にする真の国際人が、やしおの森から巣立ってくれることを期待しています。

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園
園長 古本裕一



What is Sunnyside Program?

サニーサイドプログラムって？



サニーサイドプログラムは・・・平成13年度より岐阜市の幼稚園で教育改革振興モデル事業として発足し、その教育成果が大きく評価されている日本人教諭と外国人教諭によるチーム保育形式の幼稚園教育で、いのせ学園では平成18年度に開設いたしました。外国人スタッフのみ、また英語のみで保育を行う、「インターナショナルスクール」と呼ばれる施設と違い、文部科学省の指定する日本の「幼稚園教育要領」を基本に教育を行っています。

● 真の「国際人」を育成したい

「国際化時代」と良く耳にしますが、それでは「国際人」って何だろう？と考える時、それは「英語が話せる＝国際人」ではないと私たちは思います。国際社会において魅力的な人材とは、自国の文化を知り、自国の国民性のすばらしさを兼ね備えた上で、コミュニケーションをとることが出来る社会人ではないでしょうか。サニーサイドでは、教育の目的が「英語を話せるようになること」ではなく、あくまで幼児の育ちの環境として決して偏りのない、バランスのとれた適切な環境であるということを常に重要視しています。

● 日本人としての育ちを大切に

サニーサイドの最大の特徴はその教育の基本を日本の幼児教育にしているという点です。基本的な生活習慣に始まり、相手を思いやる優しい気持ち、お友達と仲良く関わることの出来る力やどんな遊びにも積極的に参加できる意欲作り、また、日本の昔話や童謡、おもちゃなどの伝統行事など、幼稚園生活の中で子どもに身に付けてほしいこと、体験してほしいことはたくさんあります。真の国際人を育てていくためには、日本人としての育ちや日本の文化にふれる体験も大変重要なことと私たちは考え、保育の中にそれらを出来るだけ多く取り入れ、外国人の先生も一緒にそれを体験しています。詳しくは年間の行事内容をご参照下さい。

● 生活の中で自然に身に付く英語

挨拶に始まり、「Go get your bag! カバンをロッカーから出しましょう」「Let's sing a song! 歌をうたいましょう」「Who is not here today? 今日のお休みは誰ですか?」など常に日常生活の中で必要な動きや物事に合わせて英語を耳から入れる為、大人がするような「意味を頭の中で訳す」というプロセスをサニーサイドの子どもたちは持っていません。それぞれの場面や事物をイラストやフラッシュカードで見せながら教える必要はなく、英語を母国語とする子どもが身につけていくのと同じ方法で英語を理解していきます。

● 日本人教諭は「日本語」のみ 外国人教諭は「英語」のみ

1990年代には脳科学の分野が革新的な発展をとげました。その中でいわゆる「初期バイリンガル脳」の構造についてや、その育成に必要な育ちの環境についても多くの研究がなされましたが、その結果、バイリンガルな子どもが育ちやすいのは父親と母親がそれぞれに違う言語を話す場合だということがわかるようになりました。つまり、例えば母親だけが日本語と英語をおりませながら子どもに話しかけてもあまり効果が期待できないという研究結果です。私たちはそれらを踏まえ、日本人教諭は日本語のみで、外国人教諭は英語のみで子どもと関わることを基本にしています。

School Events

一年間の行事

4月 入園式
始業式
家庭訪問

5月 いちご狩り
内科検診
歯科検診
保育参観

6月 プール・川開き
親子遠足
保育参観

7月 終業式
お泊まり保育
(年長・年中)
小学生との交流
納涼祭

8月 夏期保育

9月 2学期始業式
運動会

10月 いもほり
りんご狩り
お泊まり保育(年少)
ハロウィーンパーティー

11月 お年寄りとのふれあい
観劇会
保育参観

12月 おもちつき
開園記念日のお祝い
クリスマス会
2学期終業式

1月 3学期始業式

2月 豆まき
学習発表会

3月 お別れ遠足
お別れ会
卒園式
3学期終業式

School Uniform

サニーサイドの制服

動きやすくてちょっとおしゃれな制服は子どもたちも大好きです。

冬服



夏服



Other Special Education

その他の特色教育

自然体験教育

自然の森・畑・川

サニーサイドインターナショナル・YASHIO 幼稚園には自然がいっぱい。春夏秋冬でたくさんの顔を見せてくれます。

春

新緑の中での鬼ごっこ。
こちよい風が子どもたちを包み込みます。

夏

どんなに暑くても自然の森に入ればそこは天然クーラー。
そして全身で自然を感じる川あそび。
裸足って気持ちいいね！

秋

木の実をみつめておまごこと。
ステキなケーキができるかな？

冬

落ち葉をみつめておふとんあそび。
ふかふかが気持ちいいね！

また園外においては、れんげ畑に出かけて寝転んだり、ネックレスを作ったり、自然のおもしろさを肌で感じています。

秋のおいもほりに向けては、
年中生が春にいも苗植えを行い、
年少生、年長生はりんご狩りに出かけ
ます。植物の成長、命の大切さを
体験しています。

自立する教育

自分のことは自分でやる！

上ばき洗い

「身近なことで何か出来ること？」
年長生においては自分の上ばき洗いを行っています。
自分の上ばきを洗うことで、物を大切に
する気持ちや、親へ感謝する気持ちを
培っています。

「自分のことは自分で」
上ばき洗いを通して「自分でやることは
やってみよう」という自立心を高めて
いきます。

お当番活動

給食当番、未就園児教室のお手伝い、そして運動会。一人一人が役割を持つことで責任を持って取り組んでいます。やり遂げた後の子どもたちは、みんな自信に満ちあふれ「キラキラ」と輝いています。



Parents' Voice

保護者インタビュー

鈴木いちのちゃんとお母さん

サニーサイドは、外国人の先生も担任としてついでにいただくことで、日常的に英会話や国際的環境に触れることができます。最近娘が発する英語の発音の良さに驚いています。また身につけて欲しい挨拶やマナー等の「基本的な生活習慣の確立」や「自立する教育」といったことをご指導いただけるという点も入園の決め手になりました。園や先生方のおかげもあり、娘は日々の幼稚園生活を楽しみながら、自分なりに考えて行動する事も増えてきました。子供に多くの経験ができる環境を与えてあげることが大切だと考えています。その環境があるサニーサイドに出会えた娘には、園での経験を活かし、大きく成長して欲しいと願っています。



瀬谷そうしゅんとお母さん

息子には小さい頃から異文化を通して自然に英語に触れられる環境を探していました。サニーサイドでは外国人と日本人の先生たちとの日常生活と五感を刺激する豊富なイベントとアクティビティを通して、楽しく英語に触れることができます。家族でお出かけをしている時に息子が、あのアルファベットはYだよ！と教えてくれたり、この英語は何て読むの？と興味を持ってくれるようになり、とても嬉しくなりました。英語は難しいものという概念を持たず自然に身に付けていることを実感しています。幼少期から英語環境の中で過ごし異文化交流をすることで、息子には柔軟で幅広い視野を持ってほしいと願っています。



角谷はるくんとお母さん

早期化する英語教育…将来の選択肢が広がればとの思いで、産まれてきた長男とは英語の歌や本と一緒に楽しんできました。気付けば英単語を発するようになり、今後も多くの英語に触れて欲しいとの思いで未就園児ピッコリクラスへ入会しました。そのお陰で



幼稚園入園時にはスムーズな園生活のスタートを切ることができ、今ではネイティブな発音と褒められるまでとなりました。自然の森で思い切り遊び、四季折々の様々な行事、園児一人ひとりに対し熱心に愛情注げる先生方に囲まれ、基本的な生活習慣や規律を日々学び、サニーサイド一番の魅力でもあるネイティブな英語に毎日触れられる中で、日々の成長が頼もしく、愛おしくも感じます。コロナ制限が解けた今、マスクなしで笑顔溢れる楽しい園生活を存分に楽しんで欲しいです。

添田しゅうすけくんとお母さん

小学校での英語教育を見据えて、早いうちに英語に触れて欲しいと考え入園を決めました。既に卒園した上2人の子供に関しては、英語の単語をネイティブ並みの発音で発するようになるなど、英語が上達しました。英語教育以外の指導も充実しており、日本人の先生は生活習慣についてもきめ細やかに見て下さります。また、外国人の先生は、子供はもちろんのこと、保護者である私達にもフレンドリーに接して下さるので、大変ありがたく感じています。何より息子が毎日楽しく過ごせていることで、入園させて良かったと実感します。園で学んだことを大切にして、チャレンジ精神を培い、より広い世界を力強く歩んでいける人間になってほしいと願っています。



宮田りおちゃん ななおちゃんとお母さん

母親の私は英語を話そうとすると、とても緊張します。羞恥心が働いてなかなか言葉が出てきません。子ども達には、そのような心理的な壁を作らなくて、幼少期からネイティブの英語に触れられるこちらの幼稚園を選びました。先生方の出身国も様々なので、多様性を認め合うという事が、日常を通して自然と身に付くのではないかと考えました。実際子ども達の吸収力は凄くて、下の子は入園してすぐ、雨の日にお迎えに行ったら「Umbrella!」と傘を指さして言いました。上の子は、先日知らない外国人の方に英語で年齢を聞かれて「I'm 5 years old!」と堂々と受け答えが出来ていました。そんな娘たちの姿を見て、入園させて良かったなと改めて思いました。2人の今後の成長が、益々楽しみです。



宮田ひなたくん かれんちゃんとお母さん

見学に来た時のことです。Good morning! が気持ちの良い幼稚園でした。好奇心に満ち溢れる子どもたちのキラキラした目が園生活の全てを語っているようで、どんなに楽しいことが待っているのだろうと魅せられ入園を決めました。長男がすでに卒園していますが、人としての成長は著しいものでした。特に多様な人々が集まる環境を幼いうちに経験する事で分け隔てなく他人を尊重できる心を育んだり、どんな人からでも思いやってもらえる事が自信に繋がっていました。そうした子どもたちがイベント毎に活躍する姿は遅く、親として誇らしい気持ちにさせてくれました。下の子たちもこれからの園生活でどう成長していくのかとても楽しみにしています。



秋元しゅんすけくんとお母さん

サニーサイドは自然に英語に触れられる環境が整っており、また日本の文化や行事も大切に教育して下さるところが魅力です。やしおの森では広い敷地で沢山の自然に触れながらのびのびと遊ぶことができることも魅力的です。入園後、家では英語の歌や自己紹介などを披露してくれ、楽しみながら学び吸収しているのを感じます。卒園した長女は外国人の方と積極的に英語でコミュニケーションを図るようになりました。3年間の園生活を通じた学びと経験が身に付いていることを実感しています。園長先生をはじめ先生方は熱心で一人一人丁寧に愛情深く教育して下さる素晴らしい園です。息子も園生活での学びや経験をを通して、のびのびと大きく成長してくれることを願っています。



Piccoli Class

未就園児教室 サニーサイド ピッコリクラス

早い時期から他のお友達と一緒に遊ぶ中で、幼稚園に上がってからよりスムーズなスタートを切ることが出来ます。

幼稚園入園を控えられた2歳児のお子様を対象に、週一度のクラスを開催しています。サニーサイドインターナショナル・YASHIO幼稚園同様、日本人教諭と外国人講師によるチーム保育形式で行なっております。クラスは定員制とし、一人一人と十分なコミュニケーションがとれるよう配慮しています。

月・火・水・木・金曜日
各クラス 10:00~11:30

☆ クラスの空状況等詳細は、幼稚園までお問い合わせ下さい。



After School Class

課外レッスン ● 英語教室

外国人講師による少人数制の英語教室を行なっております。幼稚園生にはもちろん、小学生を対象としたクラスも行なっています。また、サニーサイドの卒園生には、週2回コースも開設し、備わった英語力をさらに伸ばすことが出来るよう対応しております。

☆ 開設日・時間等、詳細は幼稚園までお問い合わせ下さい。



池田さやのちゃん そうまくんとお母さん

国際的な視野を持ち、将来の選択肢の幅を広げてあげたいとの思いから、サニーサイドへの入園を決めました。入園当初は英語が飛び交う環境に戸惑いがあった娘ですが、明るく親しみやすい外国人の先生や優しい日本人の先生が愛情を持って寄り添って下さるおかげで、今では毎日楽しそうに通っています。今年入園した弟に英語を教えたり、一緒に歌を歌っている姿には、園で吸収した経験が確実に身につけていると成長に驚かされています。英語力にとどまらず、礼儀正しさやチャレンジ精神、自主性が備わってきた娘。サニーサイドの素晴らしい環境下で過ごせていることに感謝しています。



加藤のあちゃんとお母さん

兄に引き続き長女もピッコリクラスよりお世話になっております。サニーサイドは外国人先生とゲームなど交えた保育活動の中で毎日楽しみながらネイティブな英語に触れる事が出来ます。朝の挨拶や帰りの挨拶は日本語の歌はもちろん、英語での歌も歌います。娘はよく園で習ったダンスや歌、英単語などを自宅では喜んで披露してくれ自然と楽しみながら沢山の事を吸収しているのが伝わります。又、運動が好きな娘は体操指導の日が楽しく、鉄棒やマット運動、縄跳びにも取り組ませてもらう苦手な事にも挑戦する力が育まれたと感じます。日本人の先生からは文化や礼儀作法等を学ぶ事が出来、とても優しく愛情を持って指導して下さいます。娘は担任の先生が大好きです。これからも沢山の事を学び経験し自信を持ち大きく成長して欲しいと願っています。

サニーサイドに入ると英語がペラペラになる…???



岐阜市のサニーサイドインターナショナル幼稚園（現 サニーサイドインターナショナルスクール）に最初のサニーサイドクラスが出来て以来、この園に通わせる保護者の方の思いには色々なものがあることに気づきます。

サニーサイドはもともと普段の生活を外国人の先生と過ごすというごく自然な「生活環境」ですが、中には「まだまだ英語の量が足りないから増やしてほしい」という方や、「私はもともと英語が話せるようになることをそんなに重要視していないから、そんな英語ばかり強調しないでほしい」という意見、実に様々です。

そして私たちは、色々な願いや期待を持つ保護者の方の思いと、現場で触れ合う子どもたちの姿を見つめながら、「この子どもたちにとって大切なことって何だろう」それだけを考えながら保育をしています。

サニーサイドと言えば、確かに「英語教育」というイメージがあると思いますが、本来は「英語環境」であって「英語教育」ではないなと感じています。そして、幼児期の子どもたちにとって、「環境」というものがどの位重要な意味を持つか、私たちはそれを日々目の当たりにしています。

小さな子どもと私たち大人の決定的な違いと言えば、「新しい環境への適応能力」であり、様々な情報や知識の「吸収力」であります。つまり、英語環境は子どもたちに必要ではありません。「英語環境」さえあれば、子どもたちは見る見るうちに理解力を身に付けていきます。

しかも、当然のことながら、小さな子どもたちの場合、意味を理解するプロセスは「言葉の翻訳」を介しません。当然初めは言われていることもわからないかも知れませんが、毎日生活の中で英語を聞いていると、朝の会の時に「Let's sing a song!」と聞けば、歌を歌うのだと理解しますし、給食の前に「Go wash your hands」と聞けば、手を洗いにいくのだと理解できるようになります。生活の中で行動を伴いながら耳にするので、あえて言うなら「意味がわからなくても意味がわかる」ということです。

そしてこの能力こそ、生後から幼児期にかけて子どもがもつとも得意とすることであり、どの子にもある力なのです。

実は、日本語もこうして子どもたちは覚えていくのですね。「生活の中で自然に身につく」…これが言語です。

また、英語の発音の周波数の帯域は、日本語と違うと言われていきます。小さい頃から英語を聞きなれていないと、絶対音感同様、大人になっても自然と耳から入ってきません。これは「耳の壁」と言われることもあります。大きくなるにつれて、それが出来てしまうと、何か英語の音が耳から入ることに違和感があるというか、あまり心地よいと感じなくなります。そして、大人になってから、それを取り除こうとしても容易にそれが出来ない、そういうものだと言われていきます。

ところが、サニーサイドの子どもたちは、年少の時から毎日英語を聞いていますので、英語が耳から入ることに違和感を感じていません。外国人に囲まれていたとしても、耳から入ってくる音はまったく苦にならないのです。

「毎日」というのは本当に見過ごせません。小学校1年生で、たとえ知能が優秀で英語が大好きだという子どもがいても、もしその子が幼児期に英語を聞く環境にいなかったとしたら、実際、サニーサイドの子どもと同じ英語の理解力を身に付けるのは相当な時間と努力が必要になってきます。毎日の積み重ねで築いたもののごさとはそういうものです。

「サニーサイドに入れたら、卒業する頃までには英語がペラペラに話せるのか」とたまに聞かれることがあります。もちろん子どもによってそれはまちまちで、限りなくバイリンガルになる子どもいますし、ほとんど話そうとしない子どももいます。平均的な場合で言えば…「ペラペラ」ではないです。おそらく普段友達同士や、家族に対して話す言葉はほぼ100パーセント日本語でしょう。

でも、これは本当にどちらでもいいことだと考えています。つまり、話せる子は、たまたま非常に応用力に長けていたり、家で話す練習をそれとなくしていたりする機会が多いのですが、普通の家庭と言えば、ほとんど日本語だけです。園で遊ぶお友達だって日本人ばかりなので、子どもだって、ただコミュニケーションをとるのに便利な日本語の方を使っているだけなのです。

それでは英語を話す力は身に付いていないのかと疑われるなら、英語を話す外国人の子どもの中で5日間生活させてみてください。「実はこんな力を秘めていたのか!」と驚かれることでしょう。

聞くことを「Input」話すことを「Output」と言いますが、人間が言葉を使えるようになるプロセスは産まれたときから常に「Input」が先です。赤ちゃんですら、生まれてから1年半以上「Input」を続け、その後やっと「Output」が出てくるのです。聞いたことを話せるようになるのであり、聞いたことがないものを話せるようになるわけがありません。

私たち大人が受けてきた英語教育の最大の間違いは、その最初の段階である「Input」がないまま、いきなり読み書きをさせられたことです。日本人が英語を話すことが苦手なのはそれに尽きると言えるでしょう。

その点、サニーサイドの子どもたちは十分に「Input」のプロセスを経験しています。環境さえ整えば、また時期がくればいつでも話せるようになるのです。そしてそこで重要なのは、「Input」のプロセスを途中で中断しないこと。小学校へ上がったらたとえ週1回でもいいでしょう、言葉が出てくるまで「Input」し続けることが大切です。

サニーサイドインターナショナルスクール（岐阜）
渡辺 寿之

